



数値で見る滋賀県立大学 2021

— 県大のポジション —

この資料は、滋賀県立大学の教育研究活動等に関する数値のうち、他大学等と比較可能なものを中心に大きく7つの視点をピックアップし、本学の概況・ポジションができるだけ明らかになるように作成しました。

1. 大学の構成員 —教職員数・学生数—
2. 学生の受入
3. 教育
4. 研究 —科学研究費助成事業—
5. 地域貢献・地域連携
6. 県大ブランド力の向上
7. 財政の状況



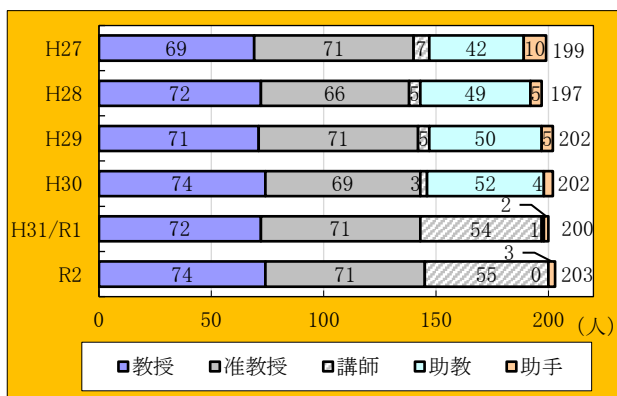
本学生活デザイン学科卒業生、島先 沢さんの卒業研究・制作
「滋賀イラスト素材」より

1. 大学の構成員 — 教職員数・学生数 —

○ 教員数は203人、事務局職員数は58人、学生数は2,881人

○ 教員の年齢構成は、45歳～49歳の層が最も多い

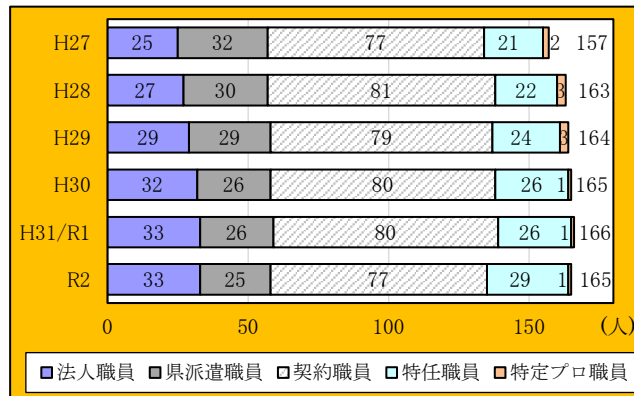
1-1 教員数



※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）

教員数は、概ね200人前後である。数の変動は、学校基本調査が毎年5月1日現在の調査であり、退職者の補充のため公募中等によるもの。

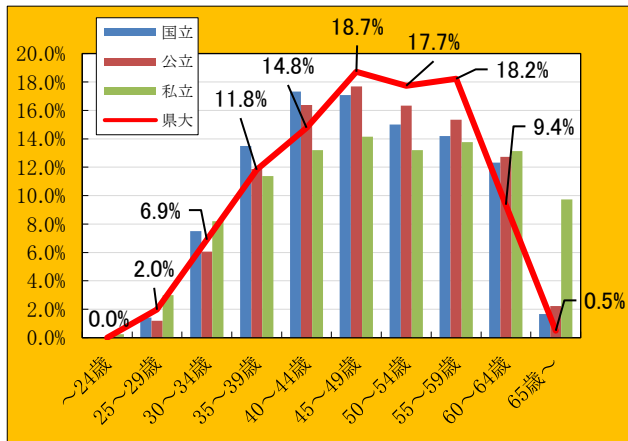
1-2 職員数



※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）ほか

事務局職員数は、契約職員等を除き58人。法人化以後、毎年度法人職員を採用し、平成30年度から法人職員の数が県派遣職員の数を上回った。このほか、平成20年度以降に特任職員（特任教授等）、特定プロジェクト職員の制度化が図られている。

1-3 教員の年齢構成

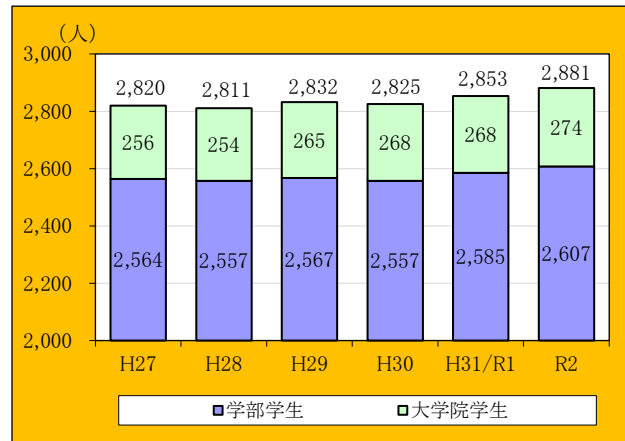


※ 国公立大学の教員年齢：令和元年度学校教員統計調査より（3年毎）

※ 本学の教員年齢：令和2年4月現在 パーセントの数値は本学のもの

45歳～49歳の層が年齢区分別で最も多く、次いで55歳～59歳の層が多い。また、国公立大学の平均に比べ、45歳～59歳までの層の構成率が高く、35歳～39歳、40歳～44歳、60歳～64歳、65歳～の層の構成率が低くなっている。

1-4 学生



※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）

令和2年度の学生数は前年度より28人増加した。

1-5 教員の構成（女性・外国人）

	国立	公立	私立	県大
女性比率	18.2%	29.3%	29.9%	31.5%
外国人比率	5.0%	4.2%	4.8%	3.9%

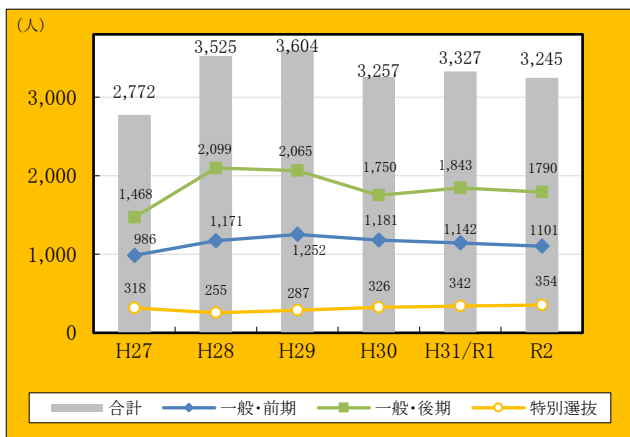
※ 出所：学校基本調査（令和2年5月1日現在）国公立データは、Web「文部科学統計要覧」より

女性比率は前年度より2.5ポイント上昇した。
外国人比率は国公立大学の平均を下回っているが、前年度より0.9ポイント上昇した。

2. 学生の受入 1/3

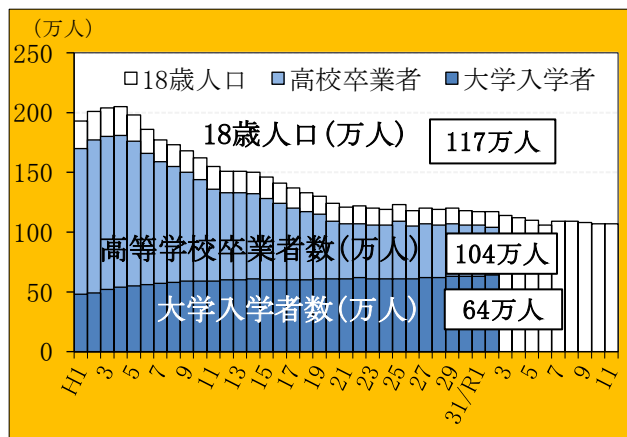
- 入学志願者総数は、3, 245人
- 一般選抜（前期日程）の志願倍率は、3.8倍

2-1 志願者の推移



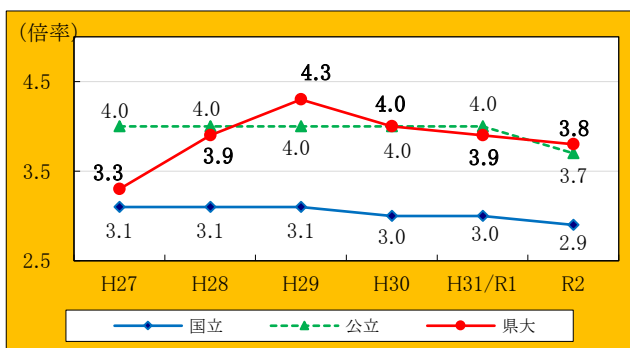
令和2年度の志願者は前年度と比べ、前期日程、後期日程で減少したが、特別選抜で増加した。志願者総数は82人減少した。

<参考> 18歳人口の推移



出所：文部科学省
令和2年18歳人口117万人、高校卒業生数104万人、大学入学者数64万人、大学進学率61.5%、大学・短大進学率66.3%

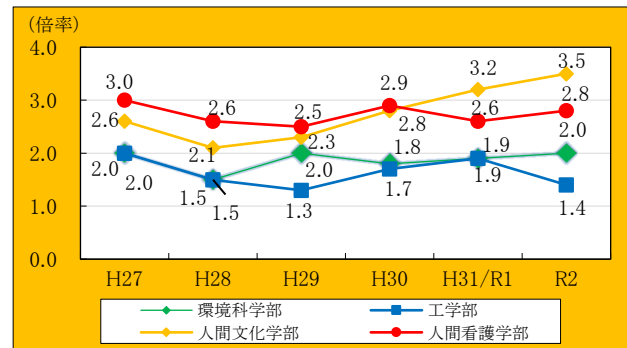
2-2 前期日程志願倍率の比較



※ 出所：文部科学省報道発表資料

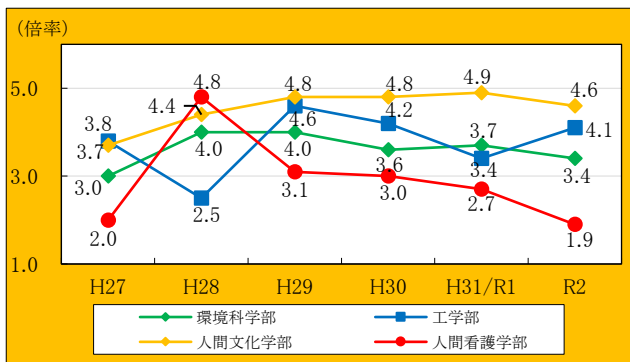
令和2年度は国公立大学の一般選抜（前期日程）の平均志願倍率は低下した。本学の志願倍率も低下した。

2-3 推薦入試志願倍率（学部別）



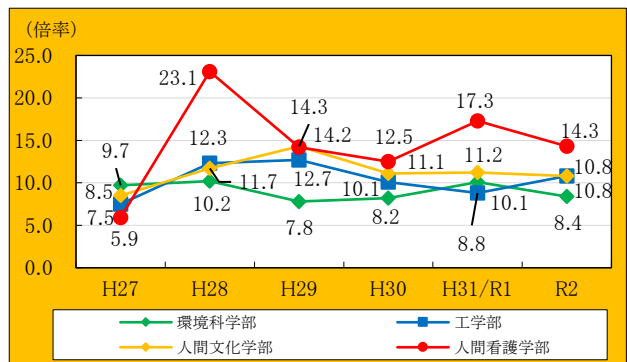
令和2年度は工学部の志願倍率が低下したが、環境科学部、人間文化学部、人間看護学部の志願倍率が上昇した。

2-4 前期日程志願倍率（学部別）



令和2年度は環境科学部と人間文化学部、人間看護学部の志願倍率が低下したが、工学部の志願倍率が上昇した。

2-5 後期日程志願倍率（学部別）

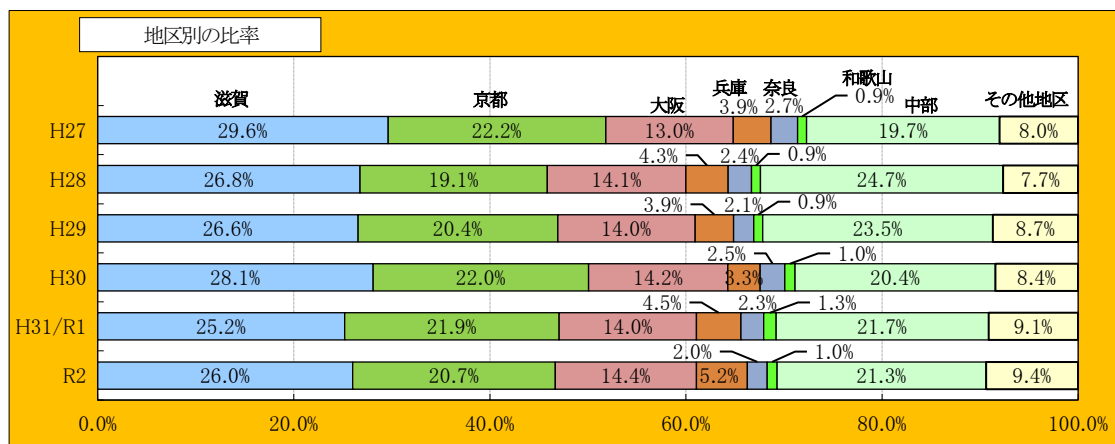


令和2年度は環境科学部と人間文化学部、人間看護学部の志願倍率が低下したが、工学部の志願倍率が上昇した。

2. 学生の受入 2/3

- 志願者のうち近畿地区は69.3%、中部地区は21.3%
- 新入学生のうち県内出身者は、31.0%（前年度1.4ポイント減）

2-6 地区別の入学志願者比率の推移 （比率＝当該地区の志願者／総志願者）



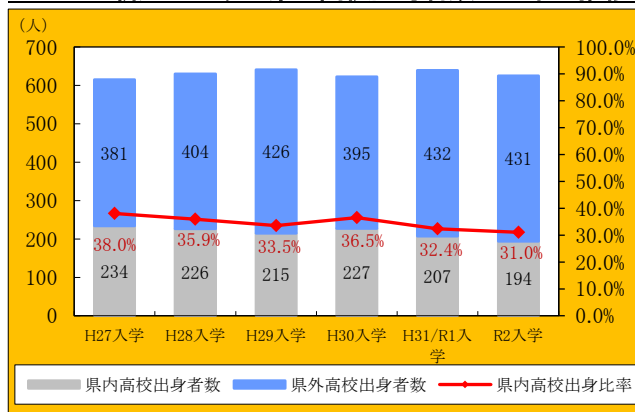
※地区は出身高校所在地による

近畿地区（2府4県）の志願者比率は、総志願者の約69%と前年度と同程度、中部地区（山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重）からの志願者比率も、約21%で前年度と同程度。両地区で総志願者の約91%を占めている。其他地区のうち3.3%は北陸地区で昨年より0.8ポイント上昇した。

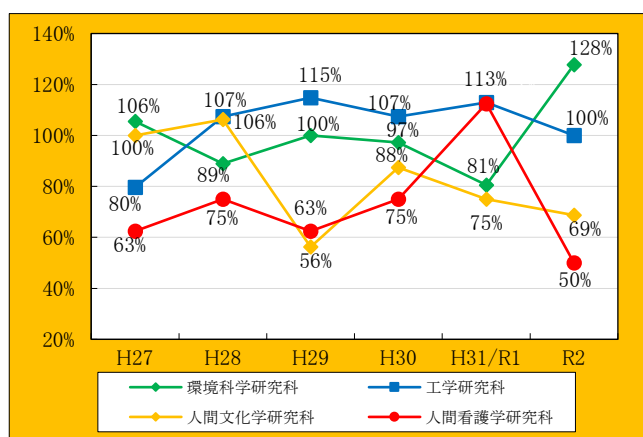
近畿地区内の各府県の志願者比率は、滋賀県が約26%、京都府が約21%程度となっている。

また、新入生のうち滋賀県内高校出身者の比率は令和2年度入学者が31.0%で前年度より減少している。

2-7 新入生のうち県内高校出身者数と比率の推移

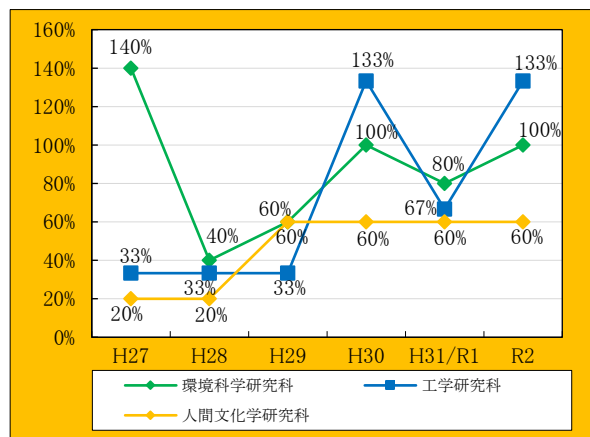


2-8 大学院入学定員充足率(修士・博士前期課程)



令和2年度は、環境科学研究科の定員充足率が上昇した。

2-9 大学院入学定員充足率(博士後期課程)



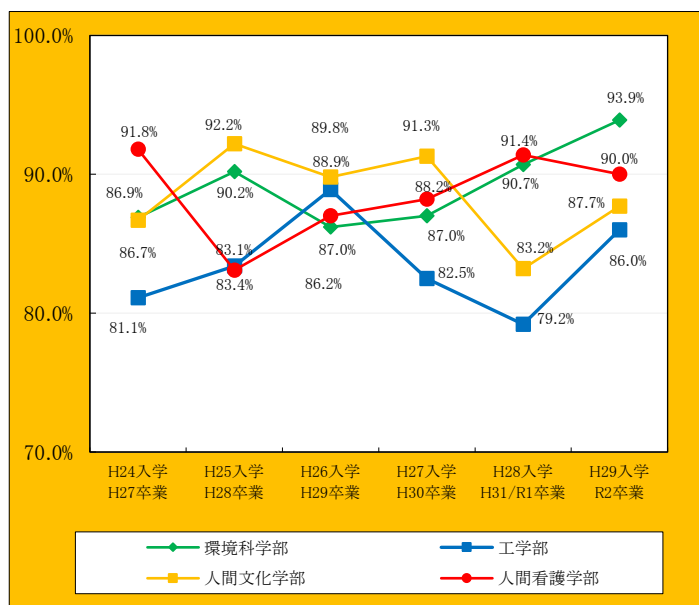
3研究科とも、母数が小さいため、1名の増減でも充足率が大きく変動し、コンスタントに定員を確保することは難しい。

2. 学生の受入 3/3

○ 休学者は年間61人、全体の2.3%で前年度より0.5ポイント減少

○ 退学者は年間27人、全体の1.0%で前年度より0.6ポイント減少

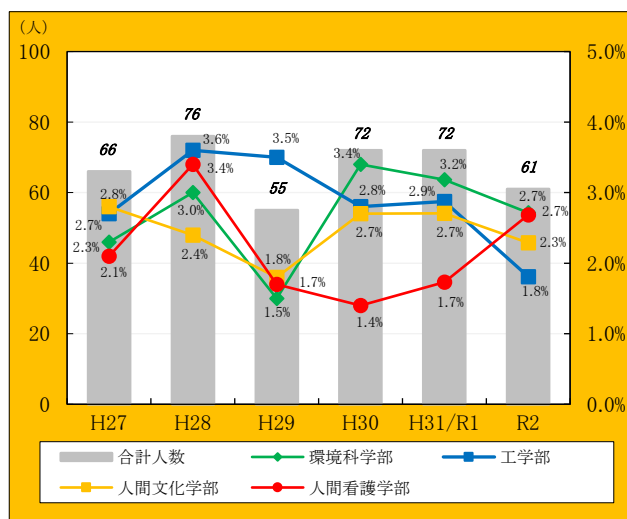
2-10 修業年限における卒業率（学部別）



修業年限（4年）での卒業率を学部別にみると、前年度より、環境科学部、工学部、人間文化学部は上昇したが、人間看護学部は低下した。

※（卒業率＝修業年限での卒業者数／入学者数）

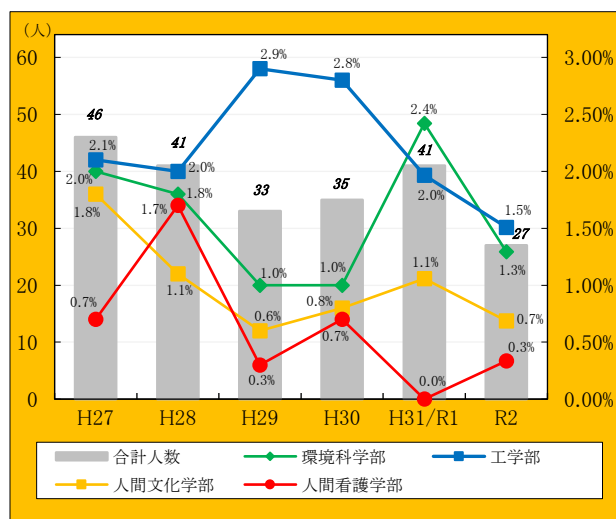
2-11 休学率（学部別）



※（休学率＝当該年度に承認された休学者数／年度当初の学生数）

令和2年度の休学者は年間61人で、全学生数の2.3%で前年度より0.5ポイント減少。休学率は環境科学部、工学部、人間文化学部で減少したが、人間看護学部は増加した。

2-12 退学率（学部別）



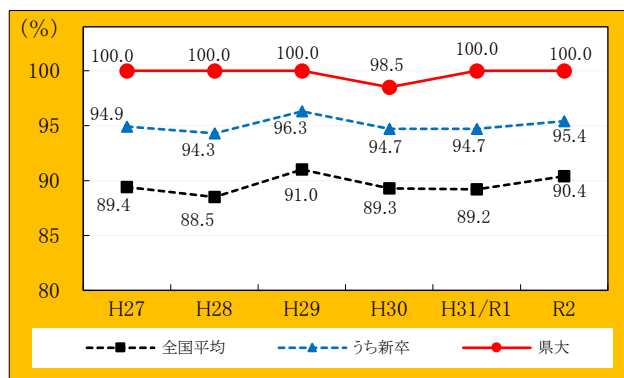
※（退学率＝当該年度に承認された退学者・除籍者数／年度当初の学生数）

令和2年度の退学者は年間27人で、全学生数の1.0%で前年度に比べ0.6ポイント減少。退学率は環境科学部、工学部、人間文化学部で減少したが、人間看護学部で増加した。

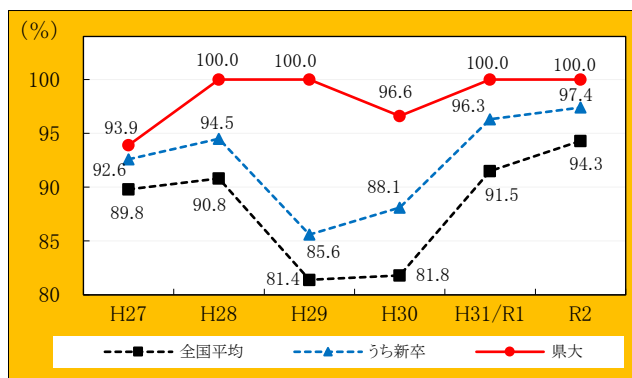
3. 教育 1/3 - 資格・検定 -

- 令和2年度の国家試験合格率は、看護師：100%、保健師：100%、管理栄養士：96.8%
- TOEICの平均スコアは、令和元年度入学生は2年間で11.8%上昇

3-1 看護師試験



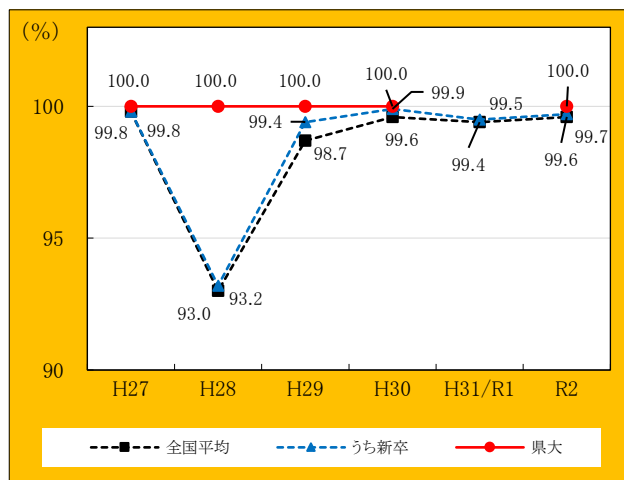
3-2 保健師試験



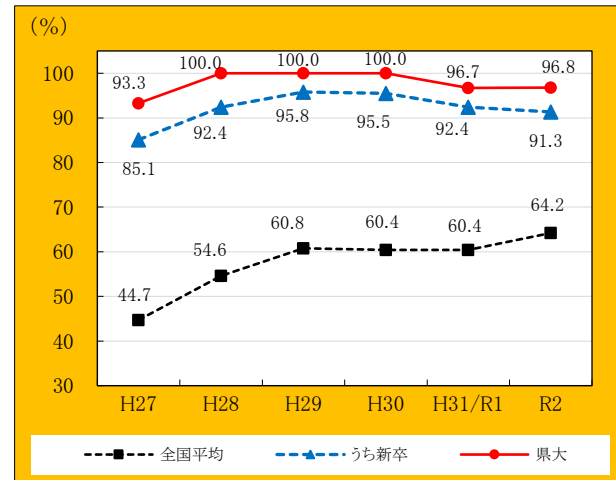
令和2年度は、看護師試験・保健師試験・助産師試験で、全員合格した。

看護師 (72 人/72 人) 保健師 (30 人/30 人) 助産師 (2 人/2 人) 管理栄養士試験 (30 人/31 人) (合格者数/本学受験者数)

3-3 助産師試験

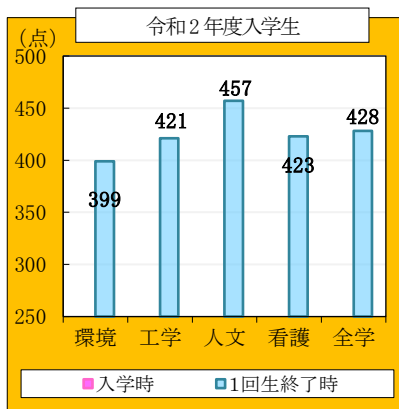
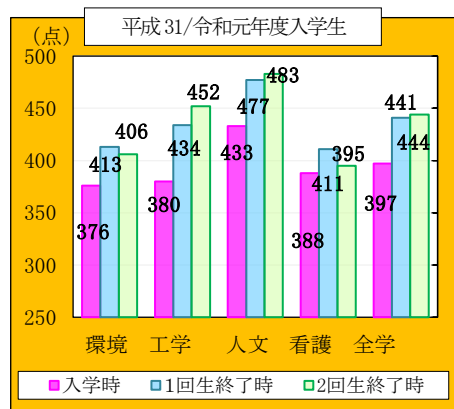


3-4 管理栄養士試験



※ 出所は、いずれも厚生労働省報道発表資料など
助産師課程を大学院に開設し学年進行中の為、平成31（令和元）年度の助産師試験受験者は無し

3-5 TOEIC 試験結果



入学年度	回数	平均点	最高点
H31/R1	1回目	397	835
	2回目	441	865
	3回目	444	845
R2	1回目	未	未
	2回目	428	790
	3回目	未	未

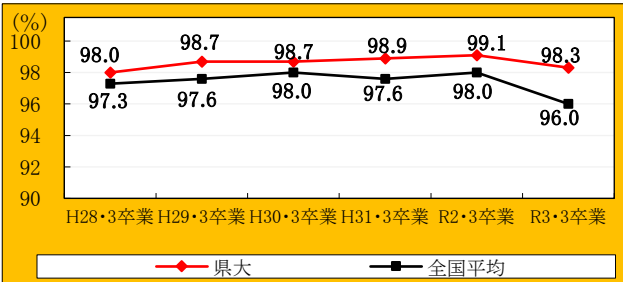
入学時、1年次終了時、2年次終了時の3回、TOEIC試験の受験を義務付けている。

令和2年4月のTOEIC試験は、コロナ自粛期間中のため、開催なし。

3. 教育 2/3 - 就職 -

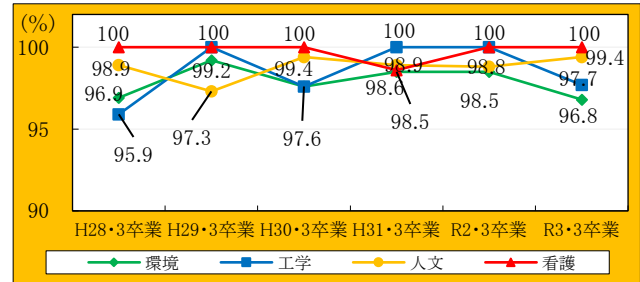
- 就職内定率（学部）は、全国平均（96%）を上回り、98.3%
- 県内就職内定率は24.2%で昨年度より2.3%低下

3-6 就職内定率（全国比較）

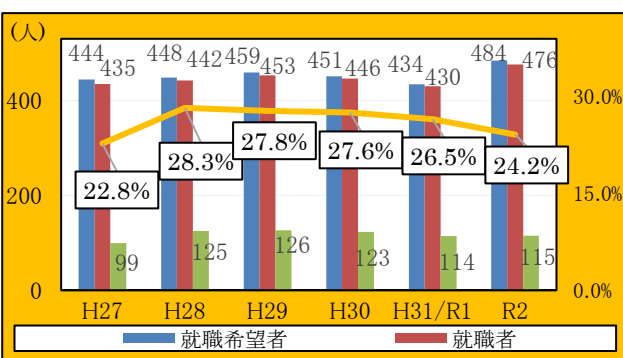


※ 出所：文部科学省報道発表資料

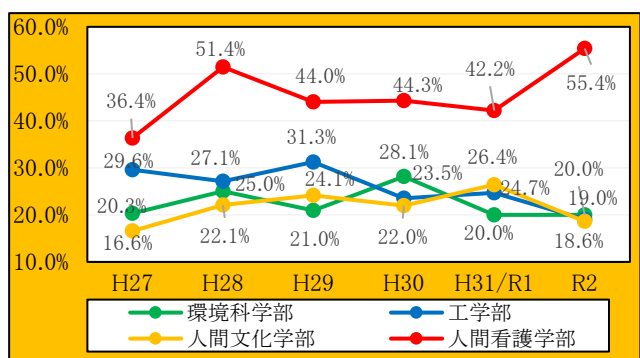
3-7 就職内定率（学部別）



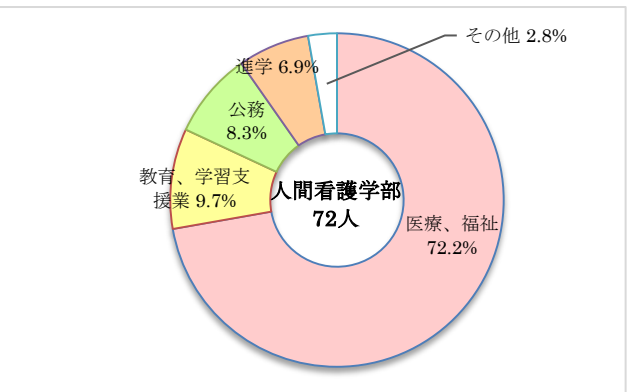
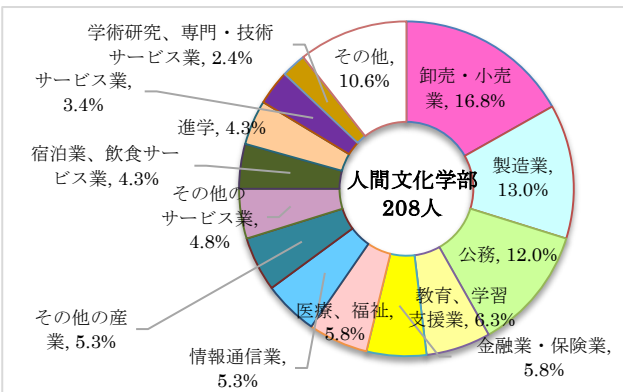
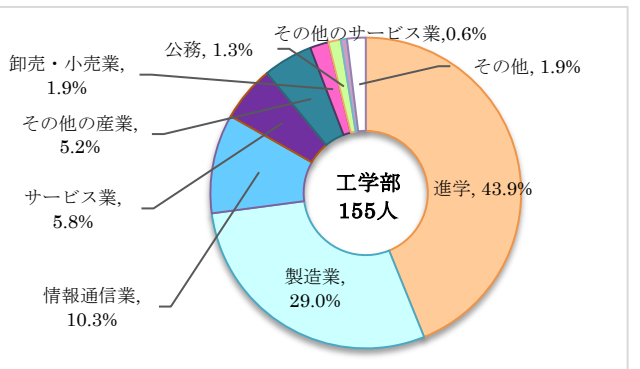
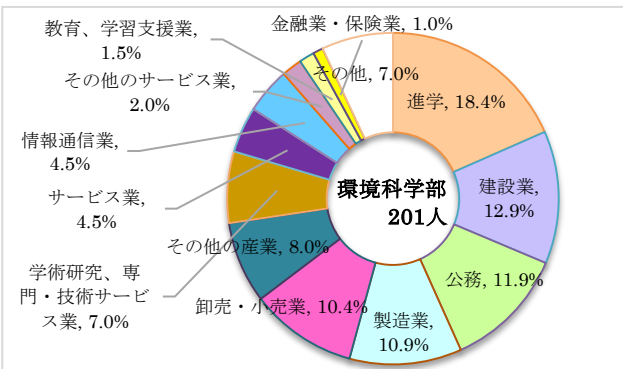
3-8 県内就職者数



3-9 県内就職内定率（学部別）



3-10 令和2年度卒業生進路状況（産業別就職状況）

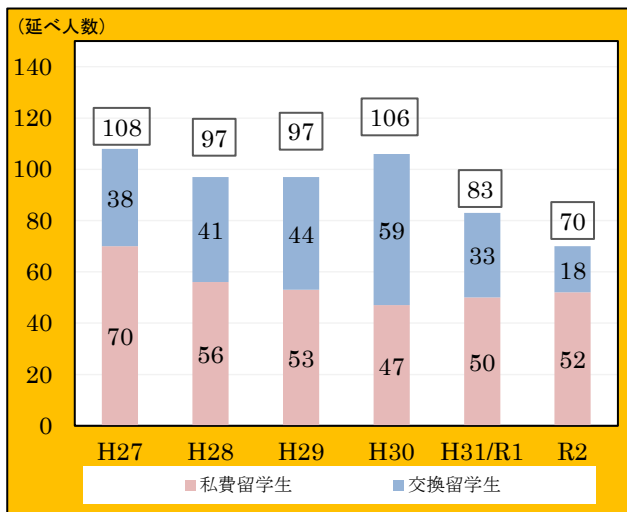


3. 教育 3/3 - 留学 -

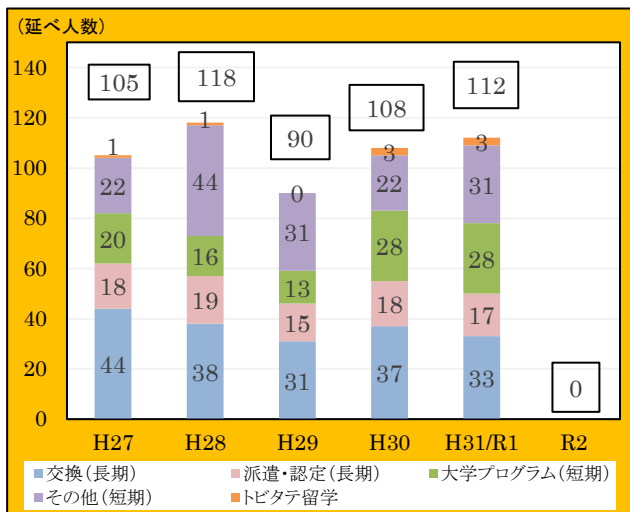
○ 海外からの留学生は12カ国70人、令和2年度は滋賀県大から海外の留学者

なし ※過去5年間、滋賀県大からは毎年、100人前後が約20カ国に留学

3-1-1 海外から滋賀県大への留学生の受入数

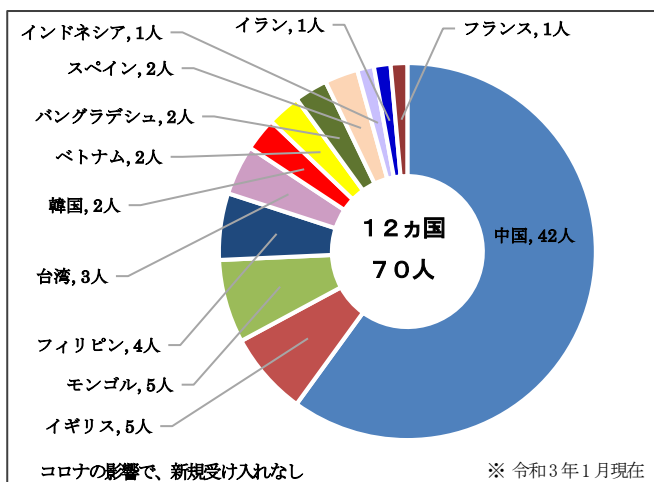


3-1-2 滋賀県大から海外への留学生の派遣実績数



国際交流行動計画に基づき学生の留学・海外派遣数、留学生の受入拡大を進め、海外26大学と交換留学協定を締結(令和3年1月現在)
令和2年度は新型コロナウイルスの影響のため、滋賀県大から海外への留学生は無し

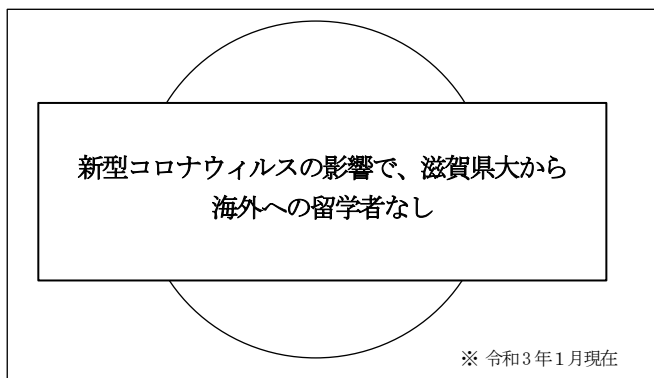
3-1-3 海外から滋賀県大へ(国別)



■ 交換留学協定大学一覧

国名	
アメリカ	ミシガン州立大学連合
	カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校
	オーパーン大学 モンゴメリー校
	アルマカレッジ
	コロムビアカレッジ
	マウントセントメリーズカレッジ
	ミッドミシガンカレッジ
イギリス	ヨークセントジョン大学
	ペルージャヤ外国人大学
スペイン	セヴィーリヤ大学
ドイツ	アウクスブルク大学
フランス	リール政治学院
	オルレアン大学
韓国	光云大学
	江原大学
台湾	中興大学
中国	海南大学
	青海民族大学
	内モンゴル民族大学
	湖南師範大学
	湖南農業大学
	中南大学
モンゴル	モンゴル国立大学
フィリピン	サンカルロス大学
オーストラリア	シドニー工科大学

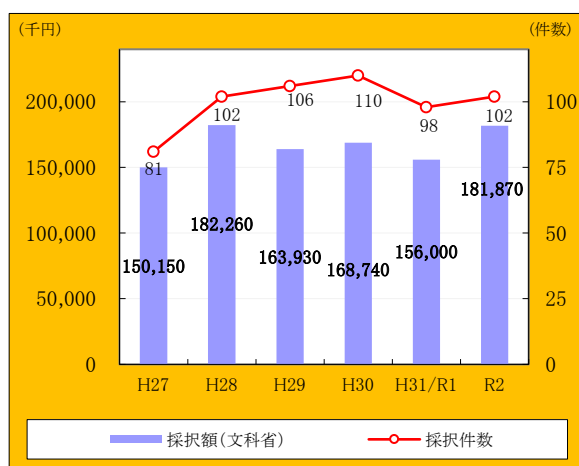
3-1-4 滋賀県大から海外へ(国別)



4. 研究 - 科学研究費助成事業 -

- 新規採択率は28.0%、採択件数は102件、
採択金額は約1億8千200万円
- 研究者1人あたりの申請数は0.91件、採択数は0.48件とやや減少

4-1 採択件数と採択金額



※ 各年度の確定値

令和2年度の採択件数は前年度に比べ4件増加し、
獲得金額についても25,870千円増加した。

4-2 令和2年度の採択状況

(新規+継続) 公立大学 採択件数上位20機関の状況

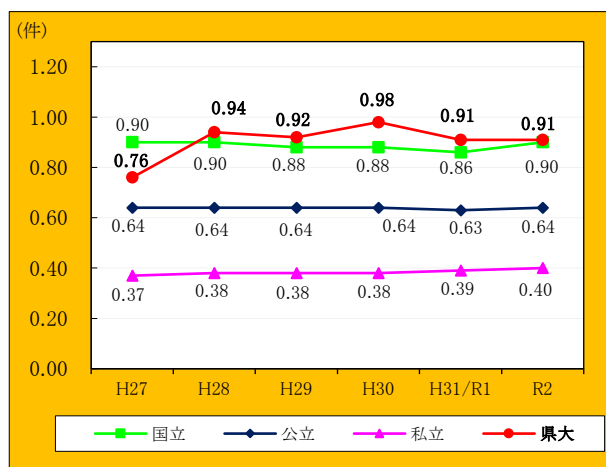
順位	機関名	新規+継続		新規応募 件数(件)	新規採択 件数(件)	新規採択 率(%)
		採択件数 (件)	配分額合計 (千円)			
1	名古屋市立大学*	526	1,026,220	521	178	34.2%
2	大阪市立大学*	493	1,062,490	692	158	22.8%
3	東京都立大学*	435	976,560	451	134	29.7%
4	横浜国立大学*	413	992,160	520	141	27.1%
5	大阪府立大学*	380	1,175,850	542	131	24.2%
6	京都府立医科大学*	343	621,010	370	124	33.5%
7	福島県立医科大学*	289	462,410	374	95	25.4%
8	兵庫県立大学*	270	637,000	370	84	22.7%
9	札幌医科大学*	266	436,800	274	92	33.6%
10	奈良県立医科大学*	237	433,420	335	91	27.2%
11	和歌山県立医科大学*	221	340,730	326	87	26.7%
12	静岡県立大学*	159	329,160	160	55	34.4%
13	県立広島大学*	105	127,920	164	42	25.6%
14	富山県立大学*	102	232,570	142	42	29.6%
15	滋賀県立大学*	102	181,870	125	35	28.0%
16	秋田県立大学*	97	178,620	127	31	24.4%
17	愛知県立大学*	94	109,330	92	34	37.0%
18	京都府立大学*	85	169,000	117	28	23.9%
19	北九州市立大学	78	163,020	111	31	27.9%
20	埼玉県立大学*	73	85,800	117	27	23.1%

※ 出所：文部科学省報道発表資料

※ 研究成果公開促進費を除く。

※ *は医学、歯学、薬学部のある大学

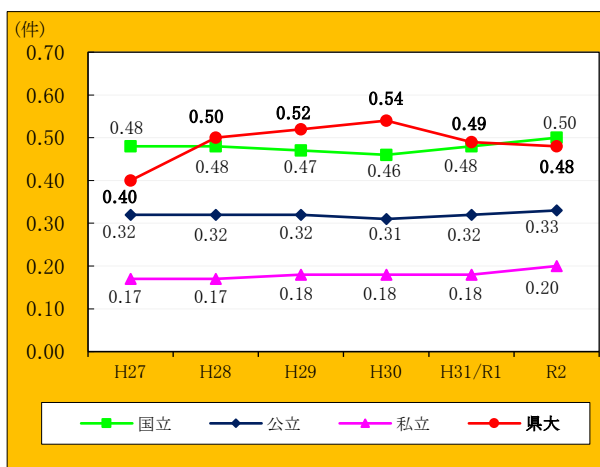
4-3 研究者1人あたりの申請数(新規+継続)



※ 出所：文部科学省報道発表資料

研究者1人あたりの申請数は、0.91件で昨年度と同様。

4-4 研究者1人あたりの採択数(新規+継続)



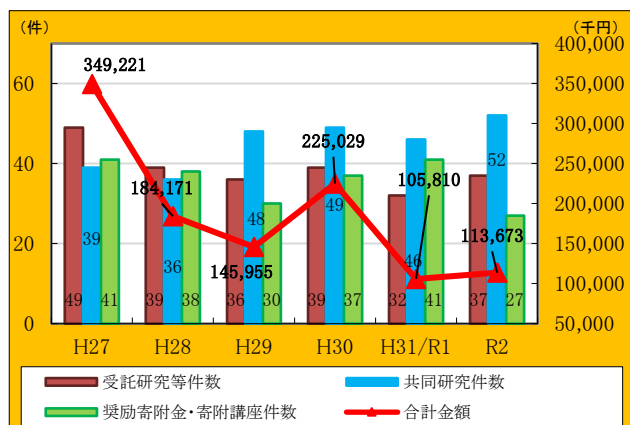
※ 出所：文部科学省報道発表資料

研究者1人あたりの採択数は、0.48件で昨年度よりやや減少した。

5. 地域貢献・地域連携 1/3

○ 受託・共同研究、奨励寄附金等の件数は116件、金額は約1億1千万円

5-1 受託研究等、共同研究、奨励寄附金等の合計（件数・金額）

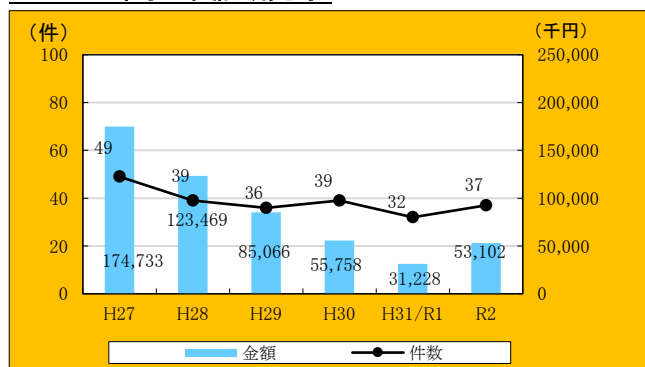


令和2年度は、受託研究等および共同研究については件数、金額ともに前年度より増加している。一方で奨励寄附金・寄附講座は件数が減少した。

（平成27年度および平成30年度は、日本電気硝子株式会社より連携事業や寄附講座の延長等により、1億円を寄附。）

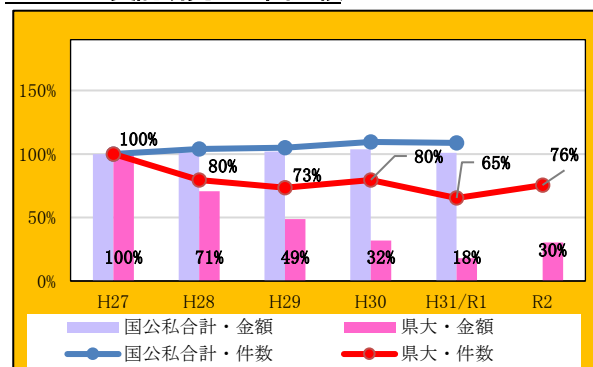
外部資金の獲得状況については、P.12に記載。

5-2 本学の受託研究等



令和2年度の受託研究等については、前年度と比べ件数、金額ともに増加した。

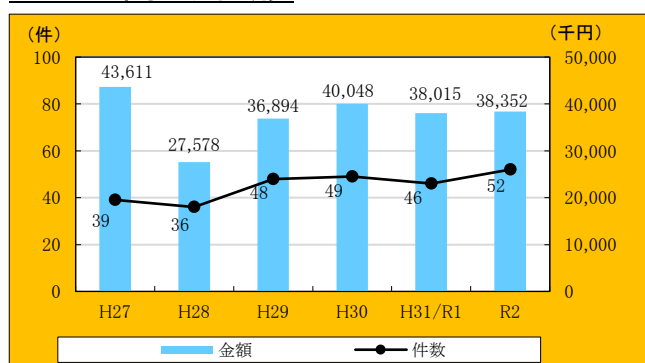
5-3 受託研究の全国比較



※平成27年の数値を100とし、各年度を比較

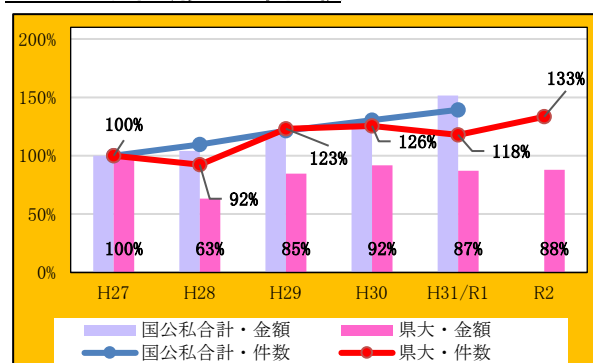
令和2年度の国公立大学のデータは、未公表

5-4 本学の共同研究



令和2年度の共同研究については、前年度に比べ件数、金額ともに増加した。

5-5 共同研究の全国比較



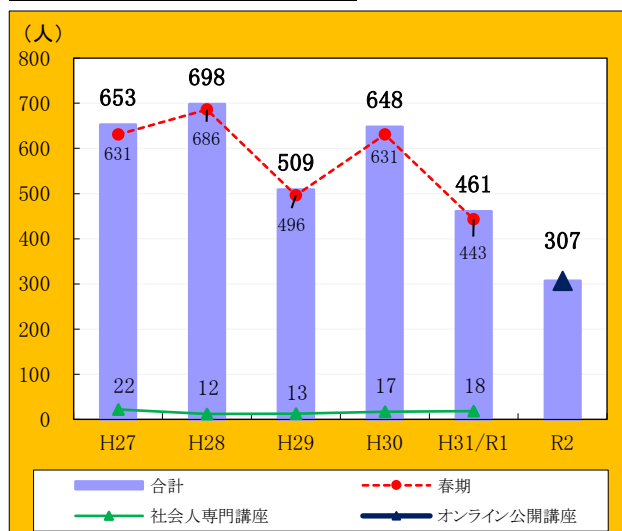
※平成27年の数値を100とし、各年度を比較

令和2年度の国公立大学のデータは、未公表

5. 地域貢献・地域連携 2/3

- 公開講座は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催
- オンライン公開講座の申込者数は307名

5-6 公開講座の参加状況



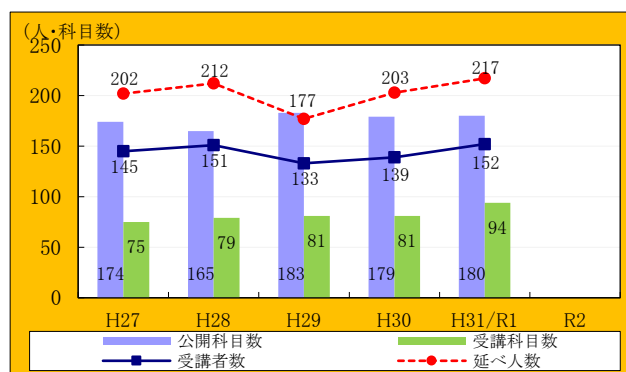
公開講座は、開学翌年度の平成8年度から開催しており、平成19年度からは有料化（受講者から受講料を徴収）していたが、平成26年度に再び無料化した。受講者数は講座テーマ等により変動している。

秋期公開講座は平成25年度に事業を終了し、平成26年度以降は社会人専門講座を開講した。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、春季は中止、社会人専門講座は名称をオンライン公開講座と改めオンライン開催となった。

5-7 公開講座の参加者の満足度

H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
84.6%	85.3%	87.9%	91.0%	89.7%	89.3%

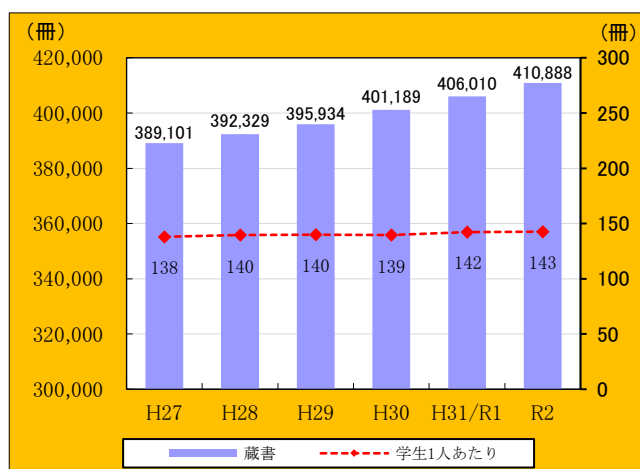
5-8 公開講義の開催状況



公開講義は、地域の人々に対して、学習の機会を提供することを目的に本学の講義を公開している。

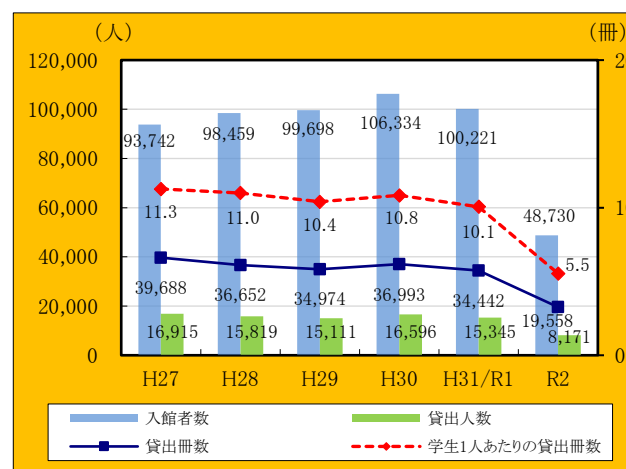
令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

5-9 図書蔵書数



図書蔵書数は前年度より増加している。

5-10 図書館入館者数および貸出状況



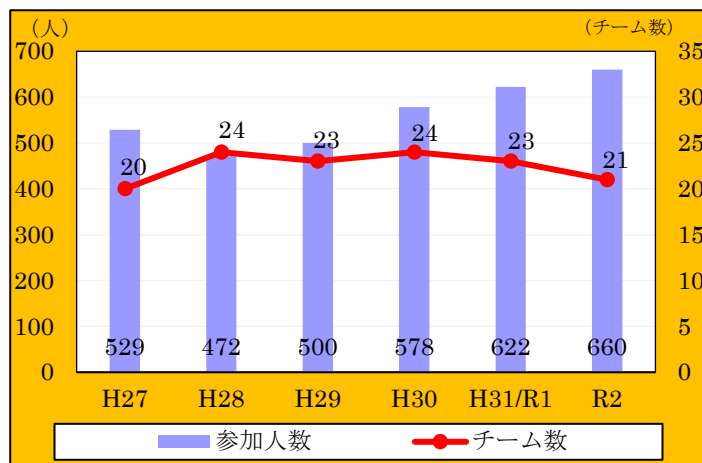
図書館入館者数は、令和2年度は7月末まで新型コロナウイルスの影響により入館制限をしていたため減少した。

その為、学生1人あたりの貸出冊数も減少した。

5. 地域貢献・地域連携 3/3

- 近江楽座では過去 17 年間で延べ 380 のプロジェクトが活動を展開
- 令和 2 年度は 21 チーム、660 人の学生が参加

5-11 学生の地域課外活動「近江楽座」への参加数



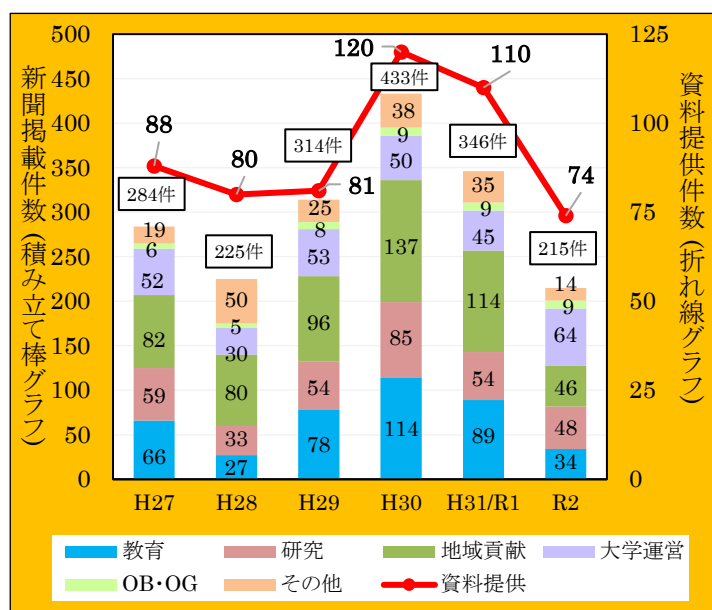
「近江楽座」は、地域貢献を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定して支援する教育プログラムであり、21 チーム、660 人の学生が参加している。

※参加人数は実績報告時点

6. 県大ブランド力の向上

- 令和 2 年度においては新型コロナウイルスの影響で、資料提供数、新聞掲載数ともに減少

6-1 新聞掲載と資料提供件数



平成 28 年度に広報戦略を策定し、平成 29 年度よりパブリシティ活動の強化に取り組み、平成 29 年度は新聞掲載件数が 89 件増加した。

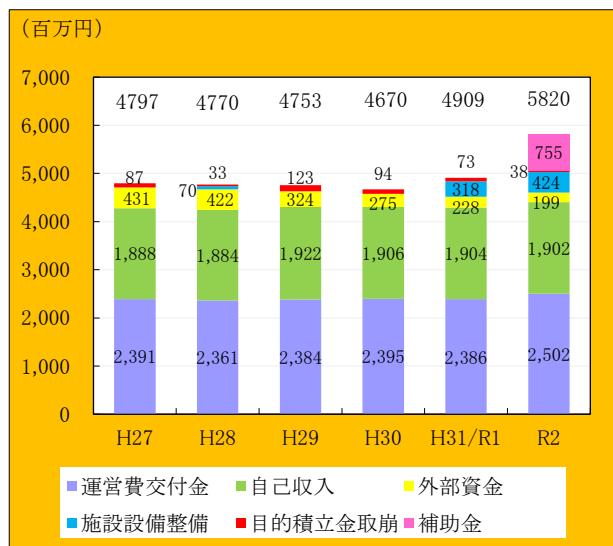
令和 2 年度においては、新型コロナウイルスの影響でイベント等の中止も増え、資料提供件数が減少した。またそれに伴い、新聞掲載件数も減少した。

※資料提供 1 件につき複数紙に掲載される場合がある。

7. 財政の状況

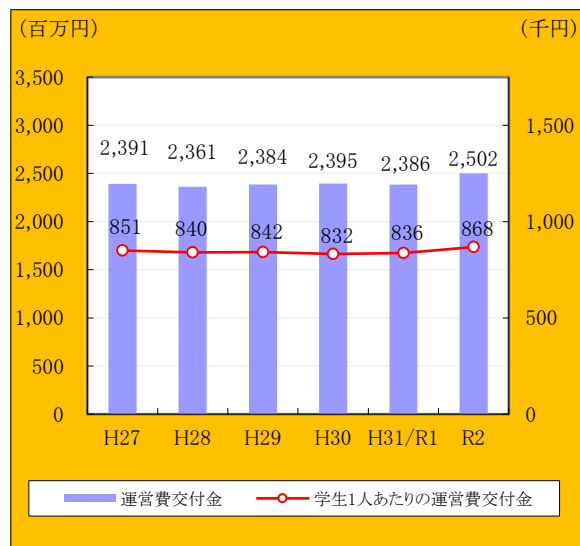
- 年間事業費が、新型コロナウイルス感染症対策補助金などの影響で、昨年度より増加。

7-1 収入額構成から見る年間事業費の状況



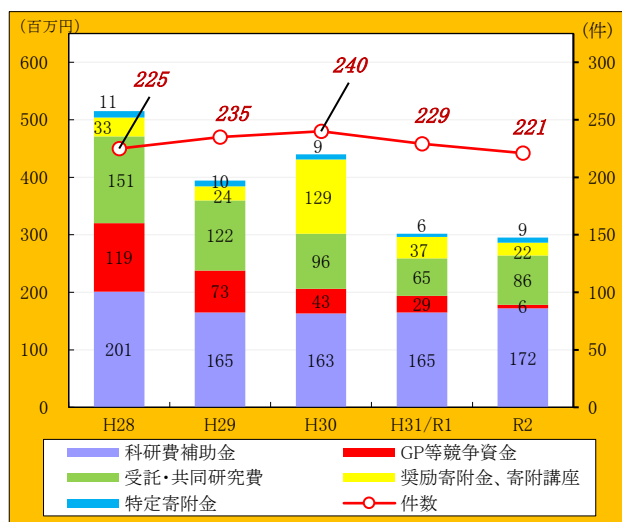
本学の年間事業費はおよそ 58 億円程度で、新型コロナウイルス感染症対策補助金などにより昨年度より約 9 億 1,100 万円増加した。

7-2 運営費交付金収入の状況



運営費交付金額は昨年より増加し、学生 1 人あたりの運営費交付金も増加した。

7-3 外部資金の獲得状況



前年度と比較して、獲得件数および金額が減少した。

7-4 教育経費の状況



経常費用（学生支援費、国際交流事業費、厚生補導費、学部等教育推進費など）は、昨年度より増加した。また整備推進費等も増加した。